

みえじびか

みみより

新聞

NO.31 平成 31 年 1 月

発行：三重耳鼻咽喉科

津市観音寺町 445-15

Tel:059-228-0100 Fax:059-228-0133

ホームページ：

<http://www.miejibika.com/>

携帯サイト：<http://www.miejibika.com/i/>



<明けましておめでとうございます>

院内の体制を変えて早 5 ヶ月目に入りました。新しいスタッフも増え、益々勢いよく頑張っていきたいと思っております。待ち時間が長いなど、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思っておりますが、お一人お一人のお話をしっかり伺い、丁寧な診療を心がける所存でございます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

<インフルエンザが早くも流行しています！>



例年、年明けからインフルエンザが流行することが多いですが、今年は 9 月頃からぼつりぼつりと顔を出し、12 月末から一気に増加しました。インフルエンザの特徴的な症状は、「強い体のだるさ、関節痛、頭痛、咳、高熱」などです。中には熱が出ず、鼻水ばかり出るため花粉症症状と間違われる方もあります。周囲やご家族にインフルエンザの方がいらっしゃる場合は要注意ですので、症状がある場合は診察にお越しくください。迅速検査では、発症から 24 時

間くらいたつと陽性率が高くなる印象があります。検査が陰性であっても、臨床的にインフルエンザと考えられる場合は治療を行います。家族の方が予防投与を希望される場合は、「自費診療（保険が利かない）」となりますが、処方することは可能です。

昨年発売された「ソフルーザ」というお薬がとてもよく効きます。高熱で来院されても、1 回内服するだけで翌日解熱する方が多い印象です。早く楽にはなりますが、熱が下がってもインフルエンザウイルスはまだ体内に残っています。発症後 5 日、かつ解熱後 2 日（乳幼児は 3 日）は出勤・通学（通園）はせず、なるべく人との接触を控え感染予防に努めましょう。

10 年ほど前より、インフルエンザ患者の「異常行動」という言葉を耳にすることがあると思います。「異常行動」とは、意識せず突然走り出したり、飛び降りようとしたりする行動のことで、状況によっては死亡事故に繋がる恐れがあります。

以前は、タミフルを内服した 10 代の患者に起こりやすいと言われていましたが、結局タミフルと異常行動に因果関係は無く、昨年 8 月より 10 代にもタミフルが処方できるようになりました。

しかし、異常行動はやはりインフルエンザ患者で起こっています。昨シーズンでは異常行動が 95 件報告され、うち 94 件は 19 歳以下であったとのことです。厚労省は、「小学 1 年生から 19 歳までの人がインフルエンザになった場合は、少なくとも発熱から 2 日間は玄関の施錠をしたり、ベランダに面していない部屋に寝かせるなど、異常行動に注意を払うように」と呼びかけています。



## <突発性難聴>



KinKi Kidsの堂本剛さんや、浜崎あゆみさんなどの有名人が発症して話題になったことがある病気です。珍しい病気のように思われるかも知れませんが、我々にとっては比較的よく遭遇する疾患です。

内耳という聞こえを司る器官の不具合や、その先（脳側）の聴神経の炎症が原因で起こると言われていますが、直接の原因は未だに分かっていません。ある日突然、片側の聴力が落ちて聞こえにくくなる、耳鳴りがする、耳が塞がった感じがする、などの症状が起こります。めまいを伴う人もいます。食器が重なる音やトイレを流す音などがすると、耳に音が響き耳障りに感じる人も多いです。ストレスが溜まっている人、睡眠不足の人、疲れている人に起こりやすい印象があります。

昨年、「急性感音難聴診療の手引き」が出版されました。これは、突発性難聴を含めた、様々な急性難聴に関する情報、治療法、エビデンスなどが記載されたものです。日本に限らず、世界の情報も網羅されています。医療機関はこうした手引きを参考にしながら、患者さんにあった適切な治療を選択していきます。

日本では、突発性難聴に対する治療法として、ステロイドホルモン（神経の腫れを取り、元気にする）、ATP製剤（血流を良くする）、ビタミンB12製剤（傷ついた神経を修復する）、利尿剤（水ぶくれを起こした内耳の水を引かせる）などといった薬を内服、もしくは点滴で投与するのが一般的です。発症から2週間以内くらいに治療を始めた方が治る確率が高いと言われていますが、それ



でも治癒する人が3割、改善（部分回復する）する人が3割、治らない人が3割という、シビアな病気です。

15年以上前は、絶対安静、入院点滴治療が基本であったこの病気ですが、今ではほとんどが内服治療です。ただし、内服治療を行ってもほとんど治療効果がない場合や、難聴が高度な場合は、当院では点滴治療を選択することもあります。点滴治療は約10日間毎日通院が必要で、1回の点滴は3時間半ほどかかります。大変ですが、少し改善が見込める人もありますので、オプションの治療として提案させて頂いています。

加えて、昨年末より、三重大学耳鼻咽喉科で「ステロイド鼓室内投与」という治療法も始まりました。これは、鼓膜を小さく切開し、そこから耳内に直接ステロイドを投与し、内耳に浸透させて治療効果を期待する方法です。毎日投与が必要なため、1週間ほどの入院となります。ステロイドを内服・点滴しづらい持病（糖尿病や緑内障など）を持っている人や、内服治療で良くならなかった人の追加治療として用いられます。



珍しい治療として、高気圧酸素療法という治療もあります。これは、酸素濃度の高い機器の中に入り、血液中の酸素を増やし、耳の障害を緩和させる方法です。専用の装置が必要になり、持っている病院は三重県内にはありません。近いところで、愛知県刈谷市の総合病院ですので、ご希望の方はご紹介させていただきます。ただし、通院加療が基本であると聞いていますので、ご紹介できる方が限られると思います。